

令和 8 年度

# 町 長 施 政 方 針

令和8年3月3日

日 南 町

令和8年日南町議会3月定例会が開催され、令和8年度一般会計予算案をはじめとする諸案件を提案し、ご審議いただくにあたり、町政運営に取り組む初心の一端と施策の大綱を説明申し上げ、町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

## 1 はじめに

本年2月8日に行われた衆議院選挙は、我が国の政治史に新たな一ページを刻みました。高市首相率いる自由民主党が、戦後初めて単独で衆議院の3分の2を超える議席を獲得し、歴史的な勝利を収めました。連立を組む日本維新の会と合わせ、これまでにない巨大与党体制が誕生したことは、国民の揺るぎない信任の表れです。新たな内閣のもと、政治の安定と力強い経済再生に向けた迅速かつ的確な政策実行が、地方の暮らしに直結することを、心から強く願うところであります。

一方、我が国は依然として、物価高騰の長期化、人口減少の加速、国際秩序の混乱という多重の難題に直面しています。こうした時代の大きな転換期にあつてこそ、中央政府が地方の声に真摯に耳を傾け、現場の切実な課題を的確に政策に反映させる姿勢が求められます。そして同時に、私たち地方自治体自身も、人口減少を前提とした「地方創生2.0」の時代に、地域の幸せと活力をどう生み出し、どう守り抜くか。その答えを、自らの手でつくっていかねばなりません。

元鳥取県知事の片山善博氏は、「当面人口は減る。それでも社会を維持し、人の幸福（ウェルビーイング）を守り抜く仕組みこそ求められる」と述べています。まさに、いま地方が向き合っている現実を言い当てた言葉であります。

若者や女性がなぜ地元を離れ、なぜ戻らないのか。その背景を真摯に受け止め、地域自らが誇りと希望の持てる環境を整えていく。この一人ひとりに寄り添う姿勢こそ、これからの地方自治に求められる使命だと考えています。

私たち日南町も、こうした時代の流れを確実に見据え、町にある豊かな自然、文化、そして人の絆という資源を最大限に活かし、挑戦を止めず、「日南町らしい歩み」を一歩ずつ積み重ねてまいります。

## 2 令和8年度日南町当初予算の編成方針

衆議院選挙の影響により、国の来年度当初予算の見通しは不透明であり、本町の財政運営にも不確実性が生じています。こうした状況のもとでも、物価高騰やエネルギー価格の上昇への対応など、町民の暮らしを守る施策を最優先とし、限られた財源を最も効果的に配分することを基本方針として、令和8年度日南町当初予算を編成しました。

その際には、町の中期財政見通しや総合戦略などをしっかりと踏まえ、未来への投資と財政健全化の両立を図りました。特に、人件費増や物価高騰への対応に伴う経費の増加に加え、病院会計や上下水道会計への一般会計繰り出し基準に基づく繰出金の増加が見込まれています。その結果、財政規模の適正さを見極めながら、将来に向けた種まきと、足元の安全・安心の確保を同時に求める「難しい編成」となったところです。

令和8年は、私の任期最後の年でもあり、これまで積み重ねてきた政策の成果を次の時代につなぐ「集大成予算」と位置付けています。

今年度の重点は、次の4つの柱です。

### **(1) 人口減を乗り越える～人を育て、未来をつくるまちへ～**

地域の未来を切りひらく原動力は、何よりも「人」です。地域の発展を支える人づくりを軸に、担い手の育成・確保、子育てと教育環境の充実、そして安心して暮らせる住まいの整備まで、一体的に進めていきます。若者が思いきり挑戦でき、子どもたちが大きな夢を描き、家庭が「ここで暮らしてよかった」と実感できる、そんな地域の土台を築いてまいります。

主な取組として、まず、町内インターンシップに参加する学生への交通費・宿泊費の助成を新たに始め、日南町に関心を寄せる若い力を積極的に呼び込みます。また、日南町産業振興センターに2人の専門職員を新たに配置し、農業の担い手確保を一段と強化するとともに、トマトやオーガニックの専門研修コースの新設に向けた体制づくりを進めます。新年度の新規農業研修生は3人、研修生全体で6人を予定。また、林業アカデミー部門でも8人（うち2人は研修科）が学ぶこととしており、若い担い手が着実に育つ環境を整えてまいります。

出産・子育て支援では、こども園・小中学校の給食費を完全無料化し、家計負担の軽減と地産地消の推進を両立させます。さらに、小中学校のネットワーク高速化を進め、時代に合ったICT教育の土台を固めるとともに、共働き世代の安心を支えるため、こども園や放課後児童クラブでの「土曜日終日預かり」をスタートさせ、子育てと仕事の両立を力強く後押しします。加えて、町営住宅の長寿命化を計画的に進め、誰もが安心して住み続けられる住環境を守っていきます。

### **(2) 暮らしの安心・安全～危機を先読みし、守りから攻めへ～**

物価高騰や災害リスクの高まりなど、町民生活を揺さぶる要因が次々と押し寄せています。こうした中で、日常の暮らしを守り抜くことはもちろん、危機を先回りして備える「攻めの安心」をつくり出すことが求められています。防災・福祉・医療の分野で先手の対応を強化し、「守る」だけの行政から、「備える・動く」行政へと一歩踏み出します。

主な取組として、物価高騰への対応では、毎月の「たったもカード」5倍デーを継続し、日々の買い物を通じて家計を下支えします。防災分野では、消防ホースの更新、住宅の耐震化支援、危険木等の事前伐採、河川の護岸修繕・河床掘削など、足元の安全を一つひとつ固めていきます。さらに、消防団員を支えるご家族への新たな支援制度を設け、地域防災の要である消防団を、町全体で応援していきます。

医療・福祉分野では、新たにアルツハイマー病治療薬への助成を行い、当事者とご家族の不安の軽減を図ります。併せて、「百歳体操」のさらなる普及・定着に向けた取組を充実させ、地域全体で健康寿命を延ばしていきます。

### **(3) 元気な地域づくり～地域の資源を活かし、成長の好循環を生む～**

地域に眠る資源を最大限に活かし、産業振興、コミュニティの再生、観光や交流による賑わいづくりを、歯車のようにかみ合わせて進めていきます。地域経済の自立と循環を促し、地方創生のモデルとなるような、持続可能な地域経営の姿を日南町から示していきます。

主な取組として、ヒメノモチを含む日南米について、品質基準づくりや統一デザインの検討を進め、「日南ならでは」のブランドづくりを推進します。併せて、自家保留や育種価の高い雌牛への更新に取り組む和牛農家への助成を拡大し、畜産の土台を強くします。さらに、機構中間保有地再生活用事業を活用し、荒廃農地の再生に取り組む農家を支援することで、眠っている農地をもう一度、地域の力に変えていきます。加えて、令和8年度には日南町で「新嘗祭」が開催されることから、その準備と運営に必要な経費を実行委員会に助成し、町をあげてこの大役を支えてまいります。

また、人と人をつなぎ直すコミュニティの再構築にも力を入れます。大宮地域振興センターを改修し、防災拠点であり、交流と働く場ともなる拠点として機能強化を図ります。併せて、老人クラブの在り方の見直しと歩調を合わせながら、活動への支援を一層充実させ、高齢者がいきいきと活躍できる場づくりを進めます。

さらに、令和8年度は日南町総合文化センターが開館30周年という節目の年を迎えます。1年を通じて、多彩なイベントや企画を文化センター、美術館、図書館、芝生広場などで展開し、世代を超えて集い、楽しみ、学べる機会を創出します。

#### **(4) 未来を描く～次の10年を見据え、構想と実行で地域の力を創る～**

日南町の次の10年、20年先の姿を、町民の皆様と共に描き、その実現へ向けて、確かな一歩を踏み出します。

具体的には、中心地域整備計画を着実に策定し、中長期的な地域像と空間構成を具体化することで、「これからの日南町」の青写真を、皆様と共に創り上げていきます。

併せて、日野郡全体で医療・介護・福祉の将来像を議論する中で、現実を見据えた着実な対応を進めます。日南病院においては、10年程度の延命を図る長寿命化工事を推進しつつ、次期病院構想に向けた基盤をしっかりと固めます。町民の皆様がいつでも安心して受診できる「最後の砦」を、これからも守り続け、時代に即した形で進化させていく所存です。

こうした取組を踏まえ、令和8年度の予算規模について申し上げます。

一般会計は約74億7千3百万円を計上し、前年度比で約6千2百万円、0.8%の増となりました。国民健康保険特別会計などを含む特別会計の総額は約18億1千6百万円、約4.0%の増。病院会計をはじめとする企業会計は総額約21億2千9百万円で約10.2%の増となりました。

厳しい財政環境の中にあっても、町民一人ひとりの生活を守り抜き、日南町の持続的な成長を確かなものとする予算として、町政の集大成を込めて編成いたしました。

#### **結びに**

日南町の人口は、今では4千人を下回っています。

しかし、これは悲観することではありません。むしろ、人口減少という現実を真正面から受け止め、「どう幸せを守り抜き、どう誇れる町を築くか」この時代に生きる私たちが問われているのです。

町内では、希望の光が次々と灯っています。にちなんトマトが3年連続で販売額2億円を突破し、不二家の「ペコちゃんミルク」に採用されるなど、全国に誇れる成果が花開いています。お米の高値取引、町民所得の上昇など地域経済の回復力が、確か

な鼓動を打ち始めています。

町が積み上げてきた「人への投資」も、実を結びつつあります。農業研修生制度、林業アカデミー、企業支援、教育の充実、地域おこし協力隊の活動。これらが町外からの新たな人の流れを生み、地域に活力を吹き込んでいます。外国人材の受け入れ拡大も、事業継続・成長の大きな原動力となりつつあります。

一方、気候変動という世界的な試練に、真剣に向き合わねばなりません。海水温の上昇、猛暑の激化、そして豪雨の頻発。自然の変化は静かに、確実に迫っています。南海トラフ地震の発生確率が「今後30年で70～80%」とも予測される今、私たちはあらゆる災害を「想定内」に収め、備えを重ね抜く町でなければなりません。

日南町は自然の恵みに満ちています。実質ゼロカーボンを達成し、豊かな森林、清らかな水、肥沃な土を守り抜くことが、未来への大きな財産となります。食料自給率約400%（カロリーベース）、清涼な高原の気候。これらを広く発信し、中山間地域の価値を全国に示してまいります。

日南病院では、長寿命化工事を進めながら診療報酬改定にも対応し、医療・健康・予防を一体で支える体制を強化します。そして、16年ぶりの「新嘗祭」献穀奉仕を本町が担うにあたり、折渡の大塚貴昭さんを中心に、町・県・JA・地域が一丸となり、全国に日南の誇りを届けます。

さらに明るいニュースが、「宝島社 住みたい田舎ランキング」です。人口1万人未満の自治体で総合7位、子育て・若者部門では5位。これまでの政策が、全国から高く評価された証です。この成果を土台に、日南ブランドをさらに磨き上げ、実感あふれる町づくりを加速させます。

以上、令和8年度に臨む町政運営の方針を申し上げます。

任期最終年となる令和8年度、人口減少や気候変動という厳しい現実を乗り越え、日南町らしい幸せと誇りある未来を切り拓くため、全身全霊で町政にあたる決意です。議員各位並びに町民の皆様の一層のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます、私の施政方針といたします。

令和8年3月3日 日南町長 中村英明